

みんな で 学ぼう わが町のお金の使い道



彦左衛門さん



えこたん

今年もわが町の台所事情をお知らせする時節となりました。平成23年度の1年間で町が使ったお金の中身をご覧いただき、今後の町政の動きを知っていただきたいと思います。

今年も財政事情に詳しい町のご意見番「彦左衛門」さん（文中では彦左さん）の登場です。質問者は、環境と都市交通のイメージキャラクターの「えこたん」、進行役は広報担当「T」が務めさせていただきます。

◆ 一般会計

T… それでは、23年度の決算の特徴から教えてください。

彦左さん… 一般会計の決算は、22年度と比べると歳入も歳出も増えたんじゃない。東日本大震災からの緩やかな回復により、法人町民税が微増し、町税全体としては2・2億円増収となったんじゃないが、歳出は全体で17億円増えたんじゃない。

えこたん… えっ！町税が少ししか増えていないのに、どうやってやりくりしたんですか？

彦左さん… それはな、財源不足を補うために貯金しておいた財政調整基金を2・9億円取り崩したり、繰入金といったある目的のために貯金しておいたお金を13・3億円取り崩したりしてやりくりしたのじゃ。

えこたん… じゃあ、なかなか大変だったんですね。

彦左さん… そうじゃよ。だけど、やらなければならぬことは多く、歳出削減を行いつつながら、計画に沿って事業は行われたのじゃ。

T… それでは23年度はどんな施設整備が行われたのですか？

彦左さん… それじゃあ、23年度に取

り組んだ大きな事業について話をするかのう。

まず、一番大きな事業は何といっても相見駅設置および周辺整備事業じゃな。平成24年3月17日の開業に向けて工事を進めたんじゃない。

次に土木費。道路新設改良事業では、長嶺大草1号線、坂崎野場1号線などの道路整備工事を行ったのじゃ。

消防費では、22年間使用して老朽化したはしご車を更新し、民生費では、保育園の空調設備設置を行ったのじゃ。

これらをひっくるめて普通建設事業と言いつつ、総額にすると35億円、歳出予算全体の24・4割と高い割合となったんじゃない。22年度と比較し、13億円増加しており、歳出増の主原因となっておるんじゃない。

えこたん… ほかに何か気になるところはありますか？

彦左さん… 扶助費、じゃな。これは、各種福祉サービスや福祉手当の費用、中学校卒業までの子ども医療の無料化、医療費助成などの町民を援助するための費用じゃが、子ども手当の制度変更などにより全体で1・3億円増えたんじゃない。

えこたん… 扶助費年々は増えている

のが気がかりですね。

彦左さん… そのとおりじゃ。今後も、注意深く見守っていかねければならないぞー！

R… それでは、そのほかの主な費目もどんなものか教えてください。

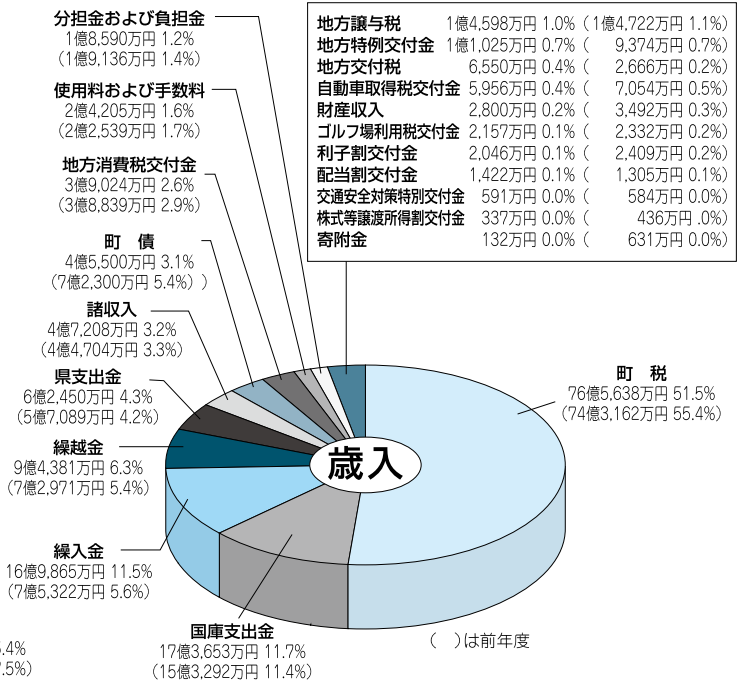
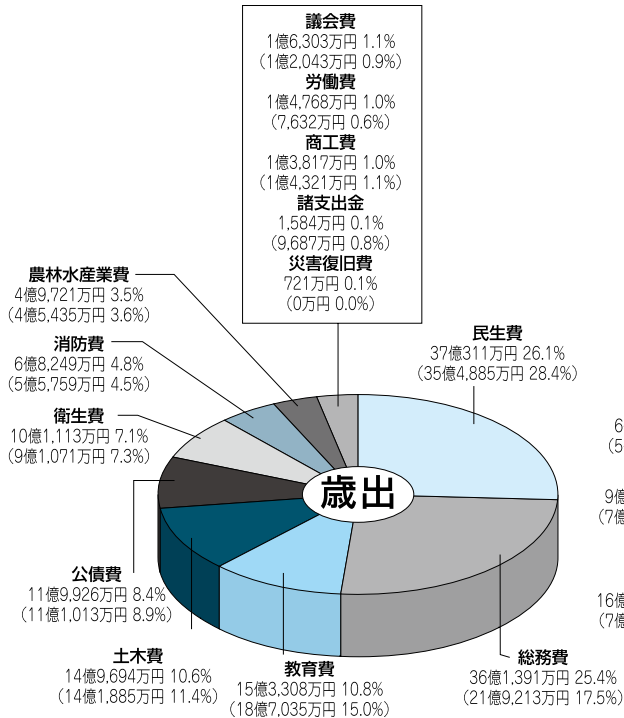
彦左さん… それじゃあ、物件費から説明しようかの。これは、役場など公施設で働くパートさんの賃金をはじめ事務用品などの消耗品に使われたもので、一番大きいのはなんといっても委託料じゃ。公施設を維持していくのに必要な施設の管理や保守点検を専門業者に委託した経費で、町民会館・図書館・町民プール・高齢者生きがいセンター・ふれあいプラザ・道の駅の6つの施設は指定管理者制度によって管理運営を委託しているのじゃ。23年度は特に子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌などのワクチン接種の増加も顕著だったのじゃ。

えこたん… 物件費が増加したのは町民の健康を守るための経費が主なものなんですね。

彦左さん… そのとおりじゃ。次に公債費は、借金の返済に充てられたものじゃ。23年度は相見駅関連の事業などで、4・5億円借りたんじゃ

歳出 142億906万円
(前年度：124億9,979万円)

歳入 148億8,128万円
(前年度：134億4,359万円)



○費目別区分

普通建設	34億7,228万円	24.4%	(22億2,050万円 17.8%)
人件費	30億5,804万円	21.5%	(28億9,339万円 23.1%)
物件費	20億8,175万円	14.7%	(19億4,641万円 15.6%)
扶助費	15億6,651万円	11.0%	(14億3,778万円 11.5%)
補助費等	13億7,650万円	9.7%	(13億4,936万円 10.8%)
公債費	11億9,926万円	8.4%	(11億1,013万円 9.0%)
繰出金	11億1,969万円	7.9%	(10億6,288万円 8.5%)
維持補修費	2億1,324万円	1.5%	(2億1,211万円 1.6%)
貸付金	9,050万円	0.6%	(9,050万円 0.6%)
積立金	2,407万円	0.2%	(1億8,764万円 1.5%)
災害復旧費	721万円	0.1%	(0万円 0.0%)

○町税内訳

固定資産税	42億3,899万円	55.4%	(44億6,111万円 60.0%)
町民税	27億8,008万円	36.3%	(23億8,841万円 32.1%)
都市計画税	2億9,130万円	3.8%	(2億8,023万円 3.8%)
たばこ税	2億7,164万円	3.5%	(2億2,871万円 3.1%)
軽自動車税	7,049万円	0.9%	(6,934万円 0.9%)
入湯税	388万円	0.1%	(382万円 0.1%)



が、10・8億円を返済し、借金の残高が6・3億円ほど減ったのじゃ！ほだけど借金残高は、まだ83億円もあるのじゃ。

えこたん…え！そんなにあるんですか？

彦左さん…そうじゃ。でも、今後も必ず返済額以下の借り入れのルールを守って、借金を減らしていく覚悟じゃよ！

次に繰出金は…

えこたん…それはまかせてね！幸田町には特別会計や企業会計というのがあって、それを運営するために一般会計から支出するお金のことを繰出金って言っんですよね。

彦左さん…そのとおりじゃ。今後も適切に繰り出しをする必要があるのじゃ。

これまでの話は、一般会計と違ってな、税金などを財源として福祉や教育、消防など町民に広く行われる行政活動における歳入・歳出の会計のことじゃ。幸田町にはそのほかに一般会計とは別に区分されておる7つの特別会計と1つの企業会計が設けられておるのじゃ。

◆特別会計・企業会計

T…では、23年度の幸田町の特別会計と企業会計でどのようにお金が使われたのか教えてください。

彦左さん…よっしゃ。一般会計は主に税金を財源として運営されておるのじゃが、特別会計は、ある特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理するための会計なのじゃ。

ここからは23年度の特別会計と企業会計について、一つずつ説明していこうかのう。

まずは、**土地取得特別会計**じゃ。この会計は、公用・公共用に使われる土地や公共の利益のために事前に土地を購入するための会計なのじゃ。

23年度は、用地の先行取得はなく、保有土地の売払いが主なものじゃった。

国民健康保険特別会計は、ほかの健康保険などの適用を受けない町民が、病気やケガをした時に本人の負担以外の医療費を医療機関などに支払ったり、出産や死亡した時に経費の一部を支給したり、加入者みんなで支え合う会計なのじゃ。

23年度末には、4,689世帯8,890人の皆さんがこの保険に加入しておるわけじゃ。

後期高齢者医療特別会計は、75歳以上の高齢者にかかわる医療保険に関する会計なのじゃ。

医療費の給付などは広域連合が行い、この特別会計では、保険料の徴収と健康診断などの事業を実施しておるのじゃ。

介護保険特別会計は、高齢になつて、介護が必要となつた場合に受ける介護サービスの本人負担以外の経費を、加入者と税金で負担し、介護サービス事業所などに支払う会計をいうんじゃ。

23年度末では、575人が要介護、189人が要支援の認定を受けて各種サービスを受けたのじゃ。

次は、**幸田駅前土地区画整理事業特別会計**じゃ。この会計は、幸田駅前地区の区画整理事業を円滑に施行するための会計なのじゃ。

23年度は、建物移転補償などの事業が主なものじゃった。

農業集落排水事業特別会計は、

幸田町は、全町下水道化を推進しており、この会計は農村集落の環境整備の一つとして進められておるのじゃ。町内13地区すべて供用開始されており、それらの施設の維持管理事業を行つておるのじゃ。

下水道事業特別会計は、農村集落以外の市街地の下水道整備などを運営しておる会計なのじゃ。

幸田町では、既存の市街化区域の整備がおおむね完了し、周辺集

落区域と新市街化区域の整備をしたんじゃ。

23年度末で農業集落排水と下水道などの汚水処理人口は、37,474人となり、普及率は99.7割となつたわけじゃ。

最後は、**水道事業会計**じゃ。この会計は企業会計と云うてな、幸田町の水道事業の運営がされておる会計なのじゃ。

幸田町の水道普及率は23年度末99.7割で、水源は県企業庁から水を買って各家庭に配水しておるのじゃ。23年度の総配水量は約451万立方メートルで、1日に永野水道山タンク2.4杯分で、22年度と比べると23年度は9万立方メートルの増加となつたのじゃ。

どうじゃな、この厳しい状況の中、限られた財源を生かして、幸田町では実にさまざまな事業が進められておるのじゃ。分かつてもらえたかのう。

えこたん…んーなんかいっぱい数字が出てきたけど、なんとなく分かつたって感じがな。記録的な円高の継続やヨーロッパの債務危機で海外経済が減速し、法人町民税が伸び悩む中、町の財政もやりくりが大変になってきているんですね。今後、お金の使われかたにちょっとは関心を持っていきたいと思います。

T…そうですね。町の財政状況もひ

■決算状況

会計名		歳入 (a) (伸び率)	歳出 (b) (伸び率)	差額 (a) - (b)
一般会計		148億8,128万円 (10.7%増)	142億906万円 (13.7%増)	6億7,222万円
特別会計	土地取得特別会計	1億1,027万円 (54.0%減)	7,722万円 (66.9%減)	3,305万円
	国民健康保険特別会計	29億3,763万円 (3.0%増)	28億6,503万円 (2.3%増)	7,260万円
	後期高齢者医療特別会計	2億4,101万円 (1.1%増)	2億4,015万円 (0.9%増)	86万円
	介護保険特別会計	12億2,255万円 (0.7%減)	12億1,290万円 (0.6%増)	965万円
	幸田駅前土地区画整理事業特別会計	5億5,911万円 (16.2%増)	5億5,270万円 (18.2%増)	641万円
	農業集落排水事業特別会計	3億5,930万円 (10.1%減)	3億5,336万円 (9.8%減)	594万円
	下水道事業特別会計	6億4,216万円 (1.3%減)	6億3,276万円 (1.0%減)	940万円
企業会計 (税抜き)	水道事業会計	収益的収支	6億705万円 (1.1%増)	1,781万円
		資本的収支	1億3,913万円 (13.6%減)	5億5,081万円 (7.7%増)
総合計		217億1,730万円 (6.9%増)	213億104万円 (8.7%増)	4億1,626万円

※歳入には翌年度繰越明許費 (事業財源分) 一般会計995万円を含む

指標で見る財政情報

経常収支比率

経常的・義務的経費に充てる割合
65～75%…適正
75%以上…要注意

23年度…92.0%
22年度…83.4%
21年度…71.6%



公債費比率

借金の一般財源に占める割合
10%以下…望ましい

23年度…10.4%
22年度…10.9%
21年度…10.5%



財政力指数

財政上の力を示す指数
指数が1以上の団体は
財政力の強い団体といえる

23年度…1.05
22年度…1.15
21年度…1.47



平成23年度に使われたお金を
町民一人当たり換算すると…

36万9,422円

(前年度 32万9,410円)

142億906万円 ÷ 38,463人
(一般会計) (H24.3.31)



■町民一人当たりを目的別に見てみると…

() 前年度

1	民 生 費	9万6,277円 (9万3,524円)
2	総 務 費	9万3,958円 (5万7,770円)
3	教 育 費	3万9,859円 (4万9,290円)
4	土 木 費	3万8,919円 (3万7,391円)
5	公 債 費	3万1,180円 (2万9,255円)
6	衛 生 費	2万6,288円 (2万4,000円)
7	消 防 費	1万7,744円 (1万4,694円)
8	農 林 水 産 業 費	1万2,927円 (1万1,974円)
9	議 会 費	4,239円 (3,174円)
10	労 働 費	3,840円 (2,011円)
11	商 工 費	3,592円 (3,774円)
12	諸 支 出 金	412円 (2,553円)
13	災 害 復 旧 費	187円 (0円)

決算審査報告

幸田町監査委員

羽根 保博
夏目 一成

とりひとりが関心を持っていかねければいけないですね。
彦左さん…そのとおりじゃ。それを住民にわかりやすくお知らせするための、財政健全化の指標が公表

されておるから、そちらも見てみるかの。

決算審査に付された各会計の歳入歳出決算書等は、いずれも関係法令等に準拠して作成されており、その計数は正確で、予算の執行はおおむね適正であると認められた。

◎一般会計・特別会計

一般会計と各特別会計の決算総額は、前年度と比較し、歳入・歳出のおの増加となった。歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支および実質収支は黒字であったが、単年度収支は赤字となった。町税などの未収金は、若干減少したが、債権的的確な管理、厳正な処理を図るべく、きめ細かな取り組みが肝要である。また、主要な財務指標では、経常収支比率が悪化し、公債費比率も未だ高水準にあるなど、厳しい状況にあることを示す指標もあり、今後さらに努力していく必要がある。

◎水道事業会計

水道事業会計は、年間総配水量及び年間総有収水量ともにそれぞれ増加している。総収益は前年に比して微増であったが、総費用も増加したため、最終純利益は減少となっている。引き続き安定かつ良質な水の供給に向けた取り組みが必要である。

◎総評

平成23年度決算では、町民税などの増収があった反面、固定資産税の落ち込みが続き、また、国県の補助金などについても不透明な状況下にあり、財政運営上手腕を強く問われた決算であった。円高、欧州債務危機など予断を許さない社会経済情勢ではあるが、多様化する住民ニーズを的確に捉え、「最少の経費で最大の効果を」という地方自治の原則を十分に認識し、効率的・効果的な事務事業の執行を図り、住民サービスの向上、安全・安心なまちづくりに一層努められたい。

(平成23年度決算審査意見から)

◆平成23年度決算に基づく健全化判断比率の公表

彦左さん…まず、財政健全化法について説明するかのう。これは、平成18年6月の夕張ショックを発端に新しい法律ができ、平成19年度から毎年議会や住民に対して財政状況を公表することが義務付けられたのじゃ。

えこたん…健全化判断比率で何が分かるんですか？

彦左さん…そうじゃな、これまでの財政指標というのは、一般会計、土地取得特別会計と幸田駅前土地区画整理事業特別会計の3会計のみ決算額で計算する普通会計ベースの指標じゃったんじゃ。そのためほかの特別会計や第3セクター、公社といった外部団体でいくら赤字があっても指標上は黒字決算になっており、本当の財政状況がわからなかつたんじゃが、新しい法律ができて、それらをすべて含めた連結決算により指標を公表することとなったのじゃ。

彦左さん…それじゃあ、ちょっと難しいけど財政健全化判断指標を一つずつ説明していこうかのう。まずは、**実質赤字比率**じゃ。これは、福祉、教育、まちづくりなどの普通会計の赤字額を町税などの財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。幸田町は赤字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、**連結実質赤字比率**じゃ。これは、決算の報告をしている一般会計と7つの特別会計、それと水道事業会計の連結決算の指標じゃ。すべての会計の赤字と黒字を足して、全体の資金不足を把握するため、町税などの財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。これも幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、**実質公債費比率**じゃ。これは、借入金の返済額などの大きさを指標化して、資金繰りの危険度を示しておるのじゃ。幸田町は3カ年平均10・4割で基準値を下回っておるのじゃ。

彦左さん…基準を一つでも超えれば、健全化計画を作成しなければならなくなつたんじゃ。

T…それでは、各指標について教えてください。

彦左さん…いんや。下回っていても愛知県内の市町村の中では高い方なんじゃ。数値自体は、22年度は10・9割だったから0・5割改善されておる、危険なレベルではないけど、もっともつと借金を減らしていかなとな。

次に、**将来負担比率**じゃ。これは、特別会計や一部事務組合、幸田町にはないが第3セクターといった外部団体まで含めた借入金や、将来支払っていく可能性のある負担の現時点での残高の程度を指標化して、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示しているのじゃ。23年度は、22年度と同様に将来負担より貯金などの方が多くなつたため数値は計上されなかつたのじゃ。

えこたん…それじゃあ、安心ですね。

彦左さん…あくまで指標じゃから安心とは言いい切れなないけど、今後不況が続くようじゃと数値が悪化してくるかもしれないので注意が必要じゃな。

最後に、**資金不足比率**じゃ。これは農業集落排水事業、下水道事業、水道事業の3つの公営企業の資金不足を、それぞれの料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況

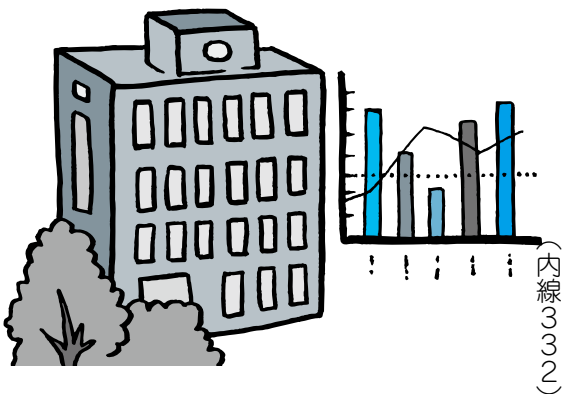
の深刻度を示したもののじゃ。幸田町の公営企業はすべて黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

えこたん…幸田町は、すべての指標が基準をクリアして良かつたわ。これからもしつかりチェックしなくっちゃね。

彦左さん…その通りじゃ。財政的に厳しい状況を迎えた今こそ、住民も議会もみんなでチェックするところが大事なんじゃぞ。

T…ここではほんの少ししかお伝えできませんが、詳しいことがお知りになりたい人は、幸田町のホームページ「財政」をご覧くださいね、役場へ来て聞いてください。

問合せ 財政課財政G



1 財政健全化判断比率

下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準を下回っています。

() は黒字比率

	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	— (▲ 9.2%)	13.85%
連結実質赤字比率	— (▲ 26.4%)	18.85%
実質公債費比率	10.4%	25.00%
将来負担比率	— (▲ 42.4%)	350.00%

※早期健全化基準

財政健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準以上の場合、財政状況はイエローカードである「早期健全化段階」となり、財政健全化計画を定めなければならない。

○財政健全化判断比率の近隣市状況

市町村名	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
幸田町	—	—	10.4%	—
岡崎市	—	—	▲ 0.6%	—
西尾市	—	—	7.0%	56.9%
蒲郡市	—	—	1.2%	—
県平均	—	—	5.6%	24.6%



※全国の自治体の状況については、総務省のホームページ (<http://www.soumu.go.jp/>) をご覧ください。

2 公営企業の資金不足比率

下表のとおり、資金不足を生じた公営企業はありません。

() は黒字比率

	資金不足比率	経営健全化基準
農業集落排水事業特別会計	— (▲ 6.7%)	20.0%
下水道事業特別会計	— (▲ 4.6%)	20.0%
水道事業会計	— (▲ 196.3%)	20.0%

※経営健全化基準

各公営企業ごとの資金不足額の、事業の規模に対する比率であり、経営健全化基準(20%)以上となった場合には、経営健全化計画を定めなければならない。

(注) 健全化判断の指標は、数値が高いほど健全性が低く、逆に数値が低いほど健全性が高いと判断される指標で、▲は赤字や資金不足がなく、より健全であることを示しています。